

公益法人 第12期

2022（令和4）年度

# 事業報告

2022年4月1日から

2023年3月31日まで

公益財団法人

ベルマーク教育助成財団

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業1は、参加団体（学校等）がベルマークを集め、自校の設備を充実させることを財団がお手伝いします。ベルマーク運動の本体ともいえます。

公益事業2は、事業1にともなって財団にいただく寄付を原資に、生徒数が少なくマーク集めが困難なへき地校、災害被災校、特別支援学校等に財団が教材を寄付します。

ベルマーク財団は事業2を実施するために事業1の仕組みとともに、1960年に設立されました。

2つの公益事業と、それを安定して継続するための財団運営にわけて、2022年度に実施した事業を報告します。

## 《公益事業1》

### ◆参加団体の動き

参加団体数は26,009団体（2023年3月末）

2022年3月末比で△260校です。少子化による学校の統廃合など、微減の傾向が続いています。参加率については、団体の過半を占める小学校の参加率は71.6%、中学校は61.0%と前年と同水準を維持しています。

〈参加団体＝学校等〉26,009団体

	2023年3月末	2022年3月末	増減
<b>参加団体数</b>	<b>26,009</b>	<b>26,269</b>	<b>-260</b>
幼稚園	4,580	4,683	-103
小学校	13,841	13,959	-118
中学校	6,152	6,191	-39
高等学校	1,154	1,155	-1
大学	93	94	-1
公民館	189	187	+2

・協賛会社数は46社です（2023年3月末）

ただし、1社（牛乳石鹼共進社は6月末退会）から退会の連絡があり、2023年度は45社となります。

・協力会社数は13社です（2023年3月末）

・参加団体の一年間の検取点数は2億9,906万点

2022年3月末比で91.5%です。長引くコロナ禍で、各参加団体が工夫を重ねて運動を継続していただき、全体として回復の基調ですが、まだまだ不安定な状況もあり、今年度の検取点数は前年には届きませんでした。

2022年度 299,068,142点（前年度比 91.5%）

2021年度 326,986,901点

ベルマーク運動が始まった1960年からの累計集票点数、29,527,636,980点、ベルマーク預金として累計約295億円になりました。

・参加団体のお買いものの額 3億3,298万円

協賛会社から提供いただいたお金と、これまでのベルマーク預金を合わせて、参加団体がこの一年間で購入した教材費等の金額です。こちらはコロナ禍の影響で20年度以降の点数減少に加え、商品の供給が進まない(ウクライナ侵攻などの影響で、原料価格高騰や輸送停滞など)ことを受けた一方、財団からの「お買いもの促進キャンペーン」活動が功を奏して、前年度比117.2%と動きが戻りました。

2022年度 332,989,916円 (前年度比 117.2%)

2021年度 284,022,272円

1960年からの累計は、28,526,757,043円=約285億円になりました。

#### ◆ベルマーク運動説明会

2022年度もコロナ禍のため全面的に中止いたしました。その代わりとして、財団HP上に説明会での資料や各協賛会社の情報を「バーチャル説明会」としてアップし、PRに努めました。

#### ◆「グッドライフフェア2022」イベントに参加

9月23～25日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催されたイベント(朝日新聞社主催)に財団のブースを出展しました。SDGsに取り組む企業や団体の活動を知らせることをコンセプトにして、延べ約2万人の来場がありました。ブースでは、各協賛会社の商品を展示、財団の動画上映に加えて、60年以上の運動の歩みなどをパネルで紹介しました。あらためてベルマーク運動の魅力が伝えられる機会となりました。

#### ◆ホームページ・刊行物

・財団ホームページ

長く続くコロナ禍の中、参加団体に必要な情報をできるだけ迅速に発信しています。また、各協賛・協力会社にとっても魅力的なページとなるよう、企業情報も積極的に掲載しています。

・ベルマーク活動報告書2022

2022年度のベルマーク財団の活動がまとめてわかるように作成しました(今年から電子データ版)。コロナ禍の中で、財団事業や各参加団体についての活動を中心にまとめました。

#### ◆学校外での集票

個人や企業などのボランティアのマーク集めはますます拡大しています。企業や自治体、個人から財団に直接送られてくる寄贈マークは件数で今年度も増えています。財団へ直接マークを寄贈できるPRを継続していることが増加の要因と考えています。2022年度の寄贈マークは5,962件に上りました(前年度比121.4%)

#### ◆ベルマーク大使

2023年2月に最高齢の幡野たいさんが、105歳でご逝去されました。1965年から半世紀以上にわたって山梨県の地元小学校でのマーク仕分けのボランティアの活動をしていただきました。2023年度は、15名の方々(運動の牽引役、熱心な協賛会社の方、発信力のあるタレントさんなど多彩な顔ぶれ)にそれぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にご尽力いただきます。

#### 《公益事業2》

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助した物品額は、2022年度は総額4,226万円相当でした。運動が始まってからの累計額は50億円を超えました。ベルマーク活動の原点であるへき地校の設備支援は、昨年度同様100校に実施しました。災害で被災した学校への支援は、被災から11年が経過した東日本大震災被災校に対して行いました。援助先ごとの概要は以下の通りです。

#### ◆へき地学校

総額2158万円相当

- ・うち設備 全国100校 2,000万円 視聴覚・理科機器、体育用品など
- ・うちソフト 7校 158万円 コロナ禍の中、十分に感染対策を実施のもと、理科実験教室・一輪車教室を実施しました。

#### ◆諸学校

総額1,040万円相当

- ・養護学校 20校 視聴覚機材等
- ・盲学校 11校 卓上型拡大読書器
- ・聾学校 14校 短焦点プロジェクター
- ・病院内学級 4学級 タブレット等

#### ◆災害被災学校

- ・東日本大震災(岩手・宮城・福島 計120校) 総額650万円相当の学用品やバス代援助等

総額には、財団の予算とウェブベルマーク協会からの助成を加え、ボランティアや企業、一般の方々が集めて財団に寄贈してくれたベルマークが含まれています。うち教職員の防災力を高める取り組みをしている「311命を守る教育研修機構」にも50万円を援助しました。

#### ◆開発途上国の学校

総額335万円相当。アジア・アフリカなどで活動する8団体を通じ8カ国に援助しました。この援助は、参加団体(学校等)がPTA預金から寄付してくださる資金と財団予算をあわせて実施しています。参加団体からのこの寄付を友愛援助と呼んでいます。

◆日本人学校

総額 43 万円相当。中華人民共和国、アメリカ、イギリス、フランスの計 4 校に支援しました。

《財団運営》

◆システム改修

仕分け・集計簡素化のためのデジタル技術、画像認識技術導入へ向けた取り組みを継続発展させるため、財団の基幹システム改修の準備を開始しました。24 年度内の完成を予定しております。これと合わせ、「簡素化」に向けた取り組みも強化します。

◆2022 年度に受けた大口寄付

・ミズノスポーツ振興財団 1,000,000 円

1971 年から 52 年連続で総額 9,450 万円になりました

・ジブラルタ生命保険株式会社 1,000,000 円

へき地校向け出前教室の充実への寄付です。

◆財団役職員数

➤ 常勤 21 人(2023 年 3 月 31 日現在)

## 2022 度事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条に規定する事項が存在しない。

公益財団法人 ベルマーク教育助成財団